



# 出題傾向

主な試験の出題傾向と、頻出分野に対応する本書の項目の一覧だよ。

でも、数的推理の内容はすべてつながっているから、**何を勉強しても力がつくんだ!**

だから、余り頻出度を気にしないで、すべての項目を一通り勉強しよう!

この資料は**参考程度**に活用してね!



## 国家公務員 総合職・一般職・専門職

出題傾向	整数問題と確率は最頻出である。新試験に移行した当初は、図形の計量問題が多数出題されていたが、近年ではほぼ1問で、以前に戻った感がある。他に、速さ、比と割合などが頻出であるが、新試験になってから広範囲の分野からバランスよく出題されている。
特に頻出な項目	#1～3 #23～24 #30～35
次に頻出な項目	#5～9 #11 #15～18

## 裁判所職員 総合職・一般職

出題傾向	確率と場合の数、整数問題、図形の計量問題が頻出で、その他に、規則性を発見させるなど個性的な問題も出題されている。多少、数学色の強い問題もあり、全体的にレベルが高く、読解力も必要である。
特に頻出な項目	#23～24 #27 #30～35
次に頻出な項目	#1～5 #15 #20～21

## 地方上級 全国型・関東型・中部北陸型

出題傾向	整数問題と、比と割合で出題のほとんどを占めるので、ここを徹底的に学習する必要がある。他には、図形の計量問題が毎年1問出題されるほか、速さ、確率なども出題されている。
特に頻出な項目	#1～6 #30～35
次に頻出な項目	#16～18 #20～24

## 東京都 I 類A・B

出題傾向	毎年のように出題される確率と集合算は「判断推理」の枠であるため、実質的な数的推理の出題数は6問程度(新方式は8問程度)となる。2014年、2015年のB試験では、集合算の出題がなく、代わりに確率が2問出題されている(A試験では従来通り各1問)。図形の計量はほぼ1問、他に整数問題や数列などが頻出であるが、マイナーな分野からも幅広く出題されている。
特に頻出な項目	#1～4, #15, #23～24, #30～34
次に頻出な項目	#5～9, #16～19, #22, #27～29

## 特別区 I 類

出題傾向	図形の計量はほぼ毎年1問出題されている。その他では、整数問題、速さが比較的多いが、近年は幅広い分野から出題されている。ここ数年、難易度が上昇していたが、2015年は基本的な問題が中心であった。
特に頻出な項目	#1～5, #16～19, #30～34
次に頻出な項目	#6～11, #15, #20～24, #27～29

※情報は2015年度試験終了時のものです。

更新情報は、こちらに掲載いたします。

[www.exia-pub.co.jp](http://www.exia-pub.co.jp)